

東大阪

(おおさかしょういんじょしだいがくきねんかん) 大阪樟蔭女子大学記念館

樟蔭高等女学校創立10周年を記念し、昭和2年に寄附を募って校舎として建てられた建物。当初は「樟蔭記念館」と呼ばれ、工事費は約10万円。

木造2階建寄棟造りで、屋根は銅板葺(当初は銅板葺)、外壁を石造風とする建物。中央西寄りに南面して正面玄関・階段室を配し、両側を張り出して塔状とすることによりその存在を主張している。また南東端の張り出し部分は、正門からの視線を意識していると思われる。1階は東側に図書閲覧室・書庫、西側に事務室、2階は東側に大講義室、西側に会議室兼来賓室を配する。

木造とは思えない立派な石張りの外壁と玄関上部をはじめ随所にうがたれたレリーフ、繊細に分割された窓が外観を印象づけている。また足元に目をやると、



南東から見る外観



床下換気口



天井点検口

所在地：東大阪市菱屋西 4-2-26
構造：木造2階建て
建築面積：448.66㎡ 延床面積：855.01㎡
最寄駅：近鉄奈良線河内小阪駅下車 西へ徒歩すぐ
公開日：原則として非公開
連絡先：学校法人樟蔭学園 TEL：06-6723-8183

中央に樟の文字を配した床下換気口が並んでおり、細部に至るまでしっかり気配りされているのに感心する。

内部に入ると、南北を貫く玄関兼階段室の吹抜空間が来訪者を出迎える。そこから各室に入ると、幾何学模様を描く天井にまず目を奪われる。その幾何学模様のみならず、各室の4隅に設置された天井点検口は、部屋によりすべて異なるデザインを採用するという凝り様。それを目の当たりにすると、「神は細部に宿る」という言葉を思い起してしまう。

本建物は平成18年2月、樟蔭学園としては「樟徳館」に次いで2件目の国の有形登録文化財として登録され、現在、1階は資料室・展示室・倉庫、2階は大教室・書道教室として、当時の趣を残したまま利用されている。(仙入 洋)